

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101933		
法人名	株式会社 メディウエル		
事業所名	グループホーム西大寺中央 (すずらん)		
所在地	岡山県岡山市東区松新町16-1		
自己評価作成日	平成 29 年 3 月 4 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3390101933-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 29 年 3 月 29 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・食べることは利用者様にとって楽しみの一つであると考え、温かくて美味しい手作りの食事を提供しています。庭の畑では季節ごとの野菜を育て、収穫の喜びも感じて頂いています。
 栄養士の立てた献立を参考に、メニュー作り、買い物、調理までを利用者様と一緒に楽しみながら行っています。また、食を通じて季節を感じて頂けるように、季節や行事にちなんだおやつや食事を取り入れています。
 ・日当たり良好なリビングや居室で利用者様は思い思いに過ごされています。穏やかにゆったりと過ごして頂けるよう、安心・安全に過ごして頂けるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体が変わり『変えられるものはいいものに変えていきたい』という経営者の思いもあって、買い物から自分たちで行って冷食ではない家庭的な食事を提供するようにしたり、行政が設定した避難場所に実際に車いすを押して歩いてみて現実的ではないことがわかり独自の避難場所を確保する、といった動きをおこなっている。1対1を大切に身体拘束を行わない工夫は職員間の連携・チームワークから生まれており、利用者の要望をかなえるためにはボランティアを最大限に活用するといった、人の力を活かした支援を行っている。事業所内は家庭的な雰囲気近づけることを意識し華美になりすぎないように配慮されている。全体的に落ち着いた雰囲気になっていて、明るく清潔に保たれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今現在、理念の掲示がされていない。早急に掲示できるように努めます。	事務所に掲示し、月に1度ミーティング時に確認を行っている。気になることがある際には申し送り時等を利用し、都度確認するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会長、民生委員の方と交流し、情報交換に努めています。また、近所の散発屋さん、近所の家の方とも積極的に交流し、柿を頂いたり、畑のアドバイスを頂いています。	散歩外出時に近所の方に積極的に挨拶、話しかけを行うなどし、良好な関係維持に努めている。近くの保育園からの慰問を含め、定期的なボランティアの訪問がある。ボランティアを積極的に活用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物時に積極的に地域の方に話掛け利用者様のことを理解して頂けるよう努めております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の民生委員、地域包括の担当者、近所の施設の施設長、利用者様のご家族等に参加して頂きホームからの様子報告、皆様からのご意見を頂き、サービスの向上に生かすようにしております。	定期的に開催している。事業所からの活動報告のみでなく、相互の情報交換の場にもなっており、防災対策や外出の際の参考にしたりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括の方が参加して下さりその折に、ホームの取り組みをお伝えしております。	地域包括支援センターとは運営推進会議を活用し、情報のやり取りもふくめ連携を図っている。市の担当課とは報告や相談等にとどまっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内の勉強会で拘束をしないケア、不適切ケアについて学ぶ・考える機会を設けています。施錠はもちろん、身体拘束をしないケアに努めております。	1対1のケアを大事にし、身体拘束をしないケアに努めている。これに係る職員研修もスケジュール化し、最低年1回は行っている。家族に対し身体拘束を行わないこと、これによって生じるリスクもあることを説明している。施錠についても夜間のみとなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内の勉強会で学ぶ・考える機会を設けています。また、関連のニュース報道等があった時にはスタッフ間で話合う等、日頃より意識してケアにあたっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内の勉強会で学ぶ機会を設けています。必要性があると思われる方から相談を受けた場合は、支援させて頂くようにしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明と、ご家族の思いをお尋ねするようにしております。入居に関してはご家族だけでなく、できるだけご本人様の納得も得るようにしております。改定時には文章でお伝えし、捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時に、利用者様の様子や状況をお伝えするようにしております。その際、ご家族の思いや要望等も伺うように努めております。	入浴時や散歩時など、利用者がリラックスしている際の会話から聞き取ったものを職員で共有化し、楽しみの実現やこれまでの生活習慣の現生活への取入れなど、サービスの向上につなげている。家族からの意見が出にくい現状がある。	運営推進会議等、実際に外部からの意見を反映して改善した実事例などを家族に紹介してみたいかでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、月1回のミーティングの中でスタッフ同士が自由に意見交換できる場を設けています。皆で相談・話し合ったことを業務に生かしております。年2回、社長との面談があり、個々の意見や要望を聞いてもらえる機会があります。	年2回の個別面談を行い、働き方の改善や設備の見直しなど、職員の働きやすさの改善につながっている。職員から「社長にもっと遠慮をしたほうがいいのかしら」と話が出るほど、意見が言いやすい環境がつけられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定時の業務終了に皆で努めております。各自の勤務希望(休み希望)を最大限尊重しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士、ケアマネージャー等の資格取得を奨励し、勤務の配慮をしています。段階に応じて、外部研修に行く機会を設けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへ見学に行く等、交流の機会があり、気づきを皆で共有しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初はご本人様の思いを傾聴し、その方を知ること努めます。より手厚く関わり信頼関係を築き、スタッフや他入居者様と一日も早く馴染みの関係が出来、安心してホームで過ごして頂けるように支援させていただきます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを傾聴し、入所当初は密に連絡させて頂くことで信頼関係を築けるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人、担当ケアマネージャー等と十分な話し合いをし、また実際に面談をさせて頂き、必要な支援の見極めをさせて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできること、意欲を見極め、ご負担にならない程度の日常のお手伝いをお願いしております。その際には必ずお礼の言葉を伝えるようにしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族との関係、つながりを大切にし来訪時には利用者様の様子をお伝えしています。ご本人とご家族とのパイプ役になれるよう心掛けております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に馴染みの家具や物を置いたり、ドライブのコースに懐かしい場所を設定したり思い出の人や物、場所を大切にできるように支援させて頂いております。	日常会話の際に本人から出てきた、ふとした思い出話などから、実際にそこに行ってみたり、友人とのはがきのやり取りの支援等を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないように、相性等にも気を配り、会話や共同作業等で利用者様同士の関わり合いの支援をしております。1階、2階の利用者様同士の交流支援もしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了が関係の終了でなく、退居後もいつでも相談して頂けることをお伝えしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から、ご本人の食べたい物、行きたい所、やりたいこと等の思いや希望を把握できるよう努めております。ご本人の思いをご家族に伝え、ご協力して頂き実現できるよう支援させて頂いております。	本人がリラックスしている時や楽しんでいる時の会話から好みや希望を聞き取り、また、日常の表情や動きから察することを大切にしている。家族やボランティアの力も借り、実現を目指している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やソーシャルワーカー等、ご本人と関わりのある方からの情報やバックグラウンドから生活歴や環境等の把握を行い、さらにはご本人との談話の中からより深く知るようしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話時の表情等から体調や気分の変化を把握し、介護記録や申し送り等で情報の共有をしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的または必要に応じてケアプランの作成、モニタリングを行っております。ご本人がより良く暮らして頂けるよう、ご本人やご家族のご意見を伺いながらプランの作成に努めております。	計画の作成に際し、家族から意見を聞くことはもちろん、職員が各自所定の様式に気付いたことを記入する『気付きシート』を作成することで、より広い視点から利用者の幸せを追求しようとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を介護記録、業務日誌に個別に記録し、申し送りで情報の共有をしております。ご本人の言葉は詳細に記録するようしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その時で皆で話し合い、アイデアを出し合い、柔軟な支援につながるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族の協力も得ながら、ご本人の生活が豊かになるよう支援させて頂きたいと思っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望があれば個々に希望の医療機関へ受診して頂いております。いつでも受診できるよう関係医療機関と連携しております。	協力医が24時間、365日いつでも連絡が可能で対応もしてくれるため、現在はすべての利用者が協力医をかかりつけ医としている。専門医への通院は家族が行うが、その際の情報の共有は協力医と専門医が直接行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師はおりませんが、週1の訪問看護時に情報や気づきを相談させて頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子・情報をご家族のご理解の上、病院へ提供しております。また、定期的に病院関係者へ連絡を取り、病状把握や退院のめど等情報を頂けるよう努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期を迎えた利用者様のご家族へは医師の方から病状説明をして頂いた上で十分に話し合いをし、考えて頂き、方針の決定ができるよう支援させて頂いております。スタッフは方針に沿い、出来る限りの支援を行うようにしております。	入居契約時に重度化した場合の指針を示し、実際に重度化・終末期となった時に改めて看取りについての指針を示している。その際には医療機関とも連携し、家族の方針決定も支援している。看取りの実績もあり、職員の勉強会もスケジュール化し取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成し備えております。事例があった後や、勉強会で対応方法の確認をし実践力が身に付くよう努めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災だけでなく、水害・地震を想定しての避難訓練を行っております。勉強会ではホームの立地場所の確認をし、どんな災害が想定されるか確認しました。食料の備蓄も少しずつ進めております。	行政が設定している災害時避難場所に、車いすを押しての試し歩きを3ルートで行った。その結果非常時にそこへ避難することは実質困難とわかり、現実的な独自の避難場所の設定を行った。備蓄の準備も始めている。	専門家、地域の方の力を借りられる体制づくりに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳と礼儀、その方を大切に思う気持ちを忘れず馴れ馴れしくならないよう、心がけております。	入居間もない方には特に丁寧に話しかけるように気をつけている。トイレ誘導は口パクや小声で本人のみにわかるように行っている。言葉のない利用者は表情に特に注意して対応するなど『察する』ことを大事にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が思いや希望を言いやすいよう、また選択しやすい声掛けに努めております。ご本人の言葉や表情から思いをくみ取れるよう努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのペースを尊重し、柔軟な対応に努めております。食事の時間をずらすこともあり、入浴もご本人様の気持ち、体調等を考慮し支援させて頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の整容に気を配り、さりげなくお手伝いをさせて頂いております。ご本人様が着たい服を選べるよう支援させて頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を話題にしたり、食べたい物を聞いたりメニューも一緒に考え、食事が楽しみなものになるよう努めております。味見をして頂いたり、簡単な調理手伝いをして頂くこともあります。	今年度1月から、事業所において買い物も含めた食事作りを行うようになった。食事がおいしくなって残食が減り、利用者からの評価は良い。食事時にテレビを消すことで話がはずみ、誤嚥防止にもつながっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に適した食事量、形態でお出ししております。食が細い方へは好みの物や食べやすい物をお出しする等、個別に対応させて頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声を掛けさせて頂き、必要な方へは見守りや介助等し、清潔が保てるよう支援させて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、個々の排泄パターンを把握し、また仕草や表情等から排泄サインを見逃さないようにし、トイレでの排泄が出来るよう支援に努めております。	排泄パターンをデータ化し、声かけやポータブルトイレを活用して失禁を減らす事に成功している。入院時にオムツになった利用者が布パンツに回復するなどの成果が出ており、多くの方が現状を維持し続けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	海藻類や野菜等の食物繊維を食事に盛り込み自然な排便が出来るよう支援させて頂いております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様のペースを大切に、無理なお誘いはせず、気持ちよく入浴して頂けるよう心掛けております。	毎日でも入浴が可能な体制を確保している。入浴剤や柚子湯といった季節を感じられる配慮を行うだけでなく、職員が『お風呂屋さん』の扮装をして、利用者が楽しく入浴出来るようにといった工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力を考慮し、午睡の時間を設けたりソファに横になる等、その方にとって最適な休息時間がとれるよう心掛けております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書から服用されている薬の情報を得、常に個々の服薬情報の把握に努めております。薬剤師と密に連携し、情報交換させて頂いております。服薬時には声に出して名前・日付等を確認し、誤薬のないよう気を付けております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の興味のあること、出来ることに目を向け無理のない程度に活動ができるよう支援させて頂いております。気候の良い時には外出支援を心掛けております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期、天気の良い日等には外出が出来るよう心掛けております。その方が喜んでくれそうな場所をスタッフ皆で考え、行けるよう努めております。	日常的に近所に散歩にでて地域の人と話をしたり、スーパーへ行き、買い物を楽しんだりしている。車で1時間ほどの場所にドライブに行くことも多い。寝たきりで外出が難しい利用者には土産話をして喜んでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を希望される方にはご家族了承の上所持して頂いております。買い物に行った際には支払い支援をしながらご本人に支払いをして頂くよう心掛けております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎ、年賀状や手紙のやりとりができるよう支援させて頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにソファを配置しどなたでもゆったりとくつろいで頂ける空間を作っております。窓からは山が見えます。飛んでいる鳥を眺めたり空を眺めたり、プランターの花を眺めたり季節を感じて頂けるようになっております。	窓から明々と光が差し込み、食事時には共有空間に面する台所から美味しそうなおいが漂う、家庭的な空間になっている。全体的に家庭環境のイメージ、歩きやすさを意識し、華美になりすぎないように、物を置きすぎないようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの他、椅子もいくつか配置しておりますので皆さん思い思いの場所で過ごされています。居室で過ごしたい方は、居室で過ごして頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込まれ、各々個性のある部屋になっており、扉を開けるとご自分の部屋であると認識されます。皆さんご自分の居室で落ち着いて過ごされております。	居室の清掃がしっかりされており、ポータブルトイレが置かれている居室についても気になるにおいが一切ない。自身の趣味の作品や仏壇などが置かれ、思い思いの空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止等、安全に配慮し家具の配置を考えております。居室やトイレには分かりやすいようにプレートが掛けてあります。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101933		
法人名	株式会社 メディウエル		
事業所名	グループホーム西大寺中央 (ひまわり)		
所在地	岡山市東区松新町16-1		
自己評価作成日	平成 29 年 3 月 4 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3390101933-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 29 年 3 月 29 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・食べることは利用者様にとって楽しみの一つであると考え、温かくて美味しい手作りの食事を提供しています。庭の畑では季節ごとの野菜を育て、収穫の喜びも感じて頂いています。
 栄養士の立てた献立を参考に、メニュー作り、買い物、調理までを利用者様と一緒に楽しみながら行っています。また、食を通じて季節を感じて頂けるように、季節や行事にちなんだおやつや食事を取り入れています。
 ・日当たり良好なリビングや居室で利用者様は思い思いに過ごされています。穏やかにゆったりと過ごして頂けるよう、安心・安全に過ごして頂けるよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営母体が変わり『変えられるものはいいものに変えていきたい』という経営者の思いもあって、買い物から自分たちで行って冷食ではない家庭的な食事を提供するようにしたり、行政が設定した避難場所に実際に車いすを押して歩いてみて現実的ではないことがわかり独自の避難場所を確保する、といった動きをおこなっている。1対1を大切に身体拘束を行わない工夫は職員間の連携・チームワークから生まれており、利用者の要望をかなえるためにはボランティアを最大限に活用するといった、人の力を活かした支援を行っている。事業所内は家庭的な雰囲気近づけることを意識し華美になりすぎないように配慮されている。全体的に落ち着いた雰囲気になっていて、明るく清潔に保たれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今現在、理念の掲示がされていない。早急に掲示できるように努めます。	事務所に掲示し、月に1度ミーティング時に確認を行っている。気になることがある際には申し送り時等を利用し、都度確認するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会長、民生委員の方と交流し、情報交換に努めています。また、近所の散発屋さん、近所の家の方とも積極的に交流し、柿を頂いたり、畑のアドバイスを頂いています。	散歩外出時に近所の方に積極的に挨拶、話しかけを行うなどし、良好な関係維持に努めている。近くの保育園からの慰問を含め、定期的なボランティアの訪問がある。ボランティアを積極的に活用している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や買い物時に積極的に地域の方に話掛け利用者様のことを理解して頂けるよう努めております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地区の民生委員、地域包括の担当者、近所の施設の施設長、利用者様のご家族等に参加して頂きホームからの様子報告、皆様からのご意見を頂き、サービスの向上に生かすようにしております。	定期的に開催している。事業所からの活動報告のみでなく、相互の情報交換の場にもなっており、防災対策や外出の際の参考にしたりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括の方が参加して下さりその折に、ホームの取り組みをお伝えしております。	地域包括支援センターとは運営推進会議を活用し、情報のやり取りもふくめ連携を図っている。市の担当課とは報告や相談等にとどまっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内の勉強会で拘束をしないケア、不適切ケアについて学ぶ・考える機会を設けています。施錠はもちろん、身体拘束をしないケアに努めております。	1対1のケアを大事にし、身体拘束をしないケアに努めている。これに係る職員研修もスケジュール化し、最低年1回は行っている。家族に対し身体拘束を行わないこと、これによって生じるリスクもあることを説明している。施錠についても夜間のみとなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内の勉強会で学ぶ・考える機会を設けています。また、関連のニュース報道等があった時にはスタッフ間で話合う等、日頃より意識してケアにあたっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内の勉強会で学ぶ機会を設けています。必要性があると思われる方から相談を受けた場合は、支援させて頂くようにしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明と、ご家族の思いをお尋ねするようにしております。入居に関してはご家族だけでなく、できるだけご本人様の納得も得るようにしております。改定時には文章でお伝えし、捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時に、利用者様の様子や状況をお伝えするようにしております。その際、ご家族の思いや要望等も伺うように努めております。	入浴時や散歩時など、利用者がリラックスしている際の会話から聞き取ったものを職員で共有化し、楽しみの実現やこれまでの生活習慣の現生活への取入れなど、サービスの向上につなげている。家族からの意見が出にくい現状がある。	運営推進会議等、実際に外部からの意見を反映して改善した実事例などを家族に紹介してみたいかでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、月1回のミーティングの中でスタッフ同士が自由に意見交換できる場を設けています。皆で相談・話し合ったことを業務に生かしております。年2回、社長との面談があり、個々の意見や要望を聞いてもらえる機会があります。	年2回の個別面談を行い、働き方の改善や設備の見直しなど、職員の働きやすさの改善につながっている。職員から「社長にもっと遠慮をしたほうがいいのかしら」と話が出るほど、意見が言いやすい環境がつけられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定時の業務終了に皆で努めております。各自の勤務希望(休み希望)を最大限尊重しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士、ケアマネージャー等の資格取得を奨励し、勤務の配慮をしています。段階に応じて、外部研修に行く機会を設けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへ見学に行く等、交流の機会があり、気づきを皆で共有しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所当初はご本人様の思いを傾聴し、その方を知ること努めます。より手厚く関わり信頼関係を築き、スタッフや他入居者様と一日も早く馴染みの関係が出来、安心してホームで過ごして頂けるように支援させていただきます。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いを傾聴し、入所当初は密に連絡させて頂くことで信頼関係を築けるように努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご本人、担当ケアマネージャー等と十分な話し合いをし、また実際に面談をさせて頂き、必要な支援の見極めをさせて頂いております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできること、意欲を見極め、ご負担にならない程度の日常のお手伝いをお願いしております。その際には必ずお礼の言葉を伝えるようにしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族との関係、つながりを大切にし来訪時には利用者様の様子をお伝えしています。ご本人とご家族とのパイプ役になれるよう心掛けております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室に馴染みの家具や物を置いたり、ドライブのコースに懐かしい場所を設定したり思い出の人や物、場所を大切にできるように支援させて頂いております。	日常会話の際に本人から出てきた、ふとした思い出話などから、実際にそこに行ってみたり、友人とのはがきのやり取りの支援等を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないように、相性等にも気を配り、会話や共同作業等で利用者様同士の関わり合いの支援をしております。1階、2階の利用者様同士の交流支援もしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了が関係の終了でなく、退居後もいつでも相談して頂けることをお伝えしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から、ご本人の食べたい物、行きたい所、やりたいこと等の思いや希望を把握できるよう努めております。ご本人の思いをご家族に伝え、ご協力して頂き実現できるよう支援させて頂いております。	本人がリラックスしている時や楽しんでいる時の会話から好みや希望を聞き取り、また、日常の表情や動きから察することを大切にしている。家族やボランティアの力も借り、実現を目指している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やソーシャルワーカー等、ご本人と関わりのある方からの情報やバックグラウンドから生活歴や環境等の把握を行い、さらにはご本人との談話の中からより深く知るようにしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	会話時の表情等から体調や気分の変化を把握し、介護記録や申し送り等で情報の共有をしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的または必要に応じてケアプランの作成、モニタリングを行っております。ご本人がより良く暮らして頂けるよう、ご本人やご家族のご意見を伺いながらプランの作成に努めております。	計画の作成に際し、家族から意見を聞くことはもちろん、職員が各自所定の様式に気付いたことを記入する『気付きシート』を作成することで、より広い視点から利用者の幸せを追求しようとしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を介護記録、業務日誌に個別に記録し、申し送りで情報の共有をしております。ご本人の言葉は詳細に記録するようにしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時その時で皆で話し合い、アイデアを出し合い、柔軟な支援につながるよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族の協力も得ながら、ご本人の生活が豊かになるよう支援させて頂きたいと思っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望があれば個々に希望の医療機関へ受診して頂いております。いつでも受診できるよう関係医療機関と連携しております。	協力医が24時間、365日いつでも連絡が可能で対応してくれるため、現在はすべての利用者が協力医をかかりつけ医としている。専門医への通院は家族が行うが、その際の情報の共有は協力医と専門医が直接行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師はおりませんが、週1の訪問看護時に情報や気づきを相談させて頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子・情報をご家族のご理解の上、病院へ提供しております。また、定期的に病院関係者へ連絡を取り、病状把握や退院のめど等情報を頂けるよう努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期を迎えた利用者様のご家族へは医師の方から病状説明をして頂いた上で十分に話し合いをし、考えて頂き、方針の決定ができるよう支援させて頂いております。スタッフは方針に沿い、出来る限りの支援を行うようにしております。	入居契約時に重度化した場合の指針を示し、実際に重度化・終末期となった時に改めて看取りについての指針を示している。その際には医療機関とも連携し、家族の方針決定も支援している。看取りの実績もあり、職員の勉強会もスケジュール化し取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成し備えております。事例があった後や、勉強会で対応方法の確認をし実践力が身に付くよう努めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災だけでなく、水害・地震を想定しての避難訓練を行っております。勉強会ではホームの立地場所の確認をし、どんな災害が想定されるか確認しました。食料の備蓄も少しずつ進めております。	行政が設定している災害時避難場所に、車いすを押しての試し歩きを3ルートで行った。その結果非常時にそこへ避難することは実質困難とわかり、現実的な独自の避難場所の設定を行った。備蓄の準備も始めている。	専門家、地域の方の力を借りられる体制づくりに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳と礼儀、その方を大切に思う気持ちを忘れず馴れ馴れしくならないよう、心がけております。	入居間もない方には特に丁寧に話しかけるように気をつけている。トイレ誘導は口パクや小声で本人のみにわかるように行っている。言葉のない利用者は表情に特に注意して対応するなど『察する』ことを大事にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が思いや希望を言いやすいよう、また選択しやすい声掛けに努めております。ご本人の言葉や表情から思いをくみ取れるよう努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのペースを尊重し、柔軟な対応に努めております。食事の時間をずらすこともありますし、入浴もご本人様の気持ち、体調等を考慮し支援させて頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の整容に気を配り、さりげなくお手伝いをさせて頂いております。ご本人様が着たい服を選べれるよう支援させて頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を話題にしたり、食べたい物を聞いたりメニューも一緒に考え、食事が楽しみなものになるよう努めております。味見をして頂いたり、簡単な調理手伝いをして頂くこともあります。	今年度1月から、事業所において買い物も含めた食事作りを行うようになった。食事がおいしくなって残食が減り、利用者からの評価は良い。食事時にテレビを消すことで話がはずみ、誤嚥防止にもつながっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に適した食事量、形態でお出ししております。食が細い方へは好みの物や食べやすい物をお出しする等、個別に対応させて頂いております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声を掛けさせて頂き、必要な方へは見守りや介助等し、清潔が保てるよう支援させて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、個々の排泄パターンを把握し、また仕草や表情等から排泄サインを見逃さないようにし、トイレでの排泄が出来るよう支援に努めております。	排泄パターンをデータ化し、声かけやポータブルトイレを活用して失禁を減らす事に成功している。入院時にオムツになった利用者が布パンツに回復するなどの成果が出ており、多くの方が現状を維持し続けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	海藻類や野菜等の食物繊維を食事に盛り込み自然な排便が出来るよう支援させて頂いております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様のペースを大切に、無理なお誘いはせず、気持ちよく入浴して頂けるよう心掛けております。	毎日でも入浴が可能な体制を確保している。入浴剤や柚子湯といった季節を感じられる配慮を行うだけでなく、職員が『お風呂屋さん』の扮装をして、利用者が楽しく入浴出来るようにといった工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力を考慮し、午睡の時間を設けたりソファに横になる等、その方にとって最適な休息時間がとれるよう心掛けております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書から服用されている薬の情報を得、常に個々の服薬情報の把握に努めております。薬剤師と密に連携し、情報交換させて頂いております。服薬時には声に出して名前・日付等を確認し、誤薬のないよう気を付けております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の興味のあること、出来ることに目を向け無理のない程度に活動ができるよう支援させて頂いております。気候の良い時には外出支援を心掛けております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い時期、天気の良い日等には外出が出来るよう心掛けております。その方が喜んでくれそうな場所をスタッフ皆で考え、行けるように努めております。	日常的に近所に散歩にでて地域の人と話をしたり、スーパーへ行き、買い物を楽しんだりしている。車で1時間ほどの場所にドライブに行くことも多い。寝たきりで外出が難しい利用者には土産話をして喜んでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を希望される方にはご家族了承の上所持して頂いております。買い物に行った際には支払い支援をしながらご本人に支払いをして頂くよう心掛けております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎ、年賀状や手紙のやり取りができるよう支援させて頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにソファを配置しどなたでもゆったりとくつろいで頂ける空間を作っております。窓からは山が見えます。飛んでいる鳥を眺めたり空を眺めたり、プランターの花を眺めたり季節を感じて頂けるようになっております。	窓から明々と光が差し込み、食事時には共有空間に面する台所から美味しそうなおいが漂う、家庭的な空間になっている。全体的に家庭環境のイメージ、歩きやすさを意識し、華美になりすぎないように、物を置きすぎないようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの他、椅子もいくつか配置しておりますので皆さん思い思いの場所で過ごされています。居室で過ごしたい方は、居室で過ごして頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込まれ、各々個性のある部屋になっており、扉を開けるとご自分の部屋であると認識されます。皆さんご自分の居室で落ち着いて過ごされています。	居室の清掃がしっかりされており、ポータブルトイレが置かれている居室についても気になるにおいが一切ない。自身の趣味の作品や仏壇などが置かれ、思い思いの空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止等、安全に配慮し家具の配置を考えております。居室やトイレには分かりやすいようにプレートが掛けてあります。		